ニコラ・アンゲリッシュ（ピアノ）

Nicholas Angelich，Piano

　1970年アメリカ生まれ。13歳でパリ国立音楽院に入学し、アルド・チッコリーニ、イヴォンヌ・ロリオ、ミシェル・ベロフらに師事。レオン・フライシャーやマリア・ジョアン・ピリスらにも学び、1994年にジーナ・バッカウアー国際コンクールで優勝。2003年にはクルト・マズア指揮ニューヨーク・フィルとベートーヴェン「皇帝」を弾いて同団にデビューした。

　デュトワ、ユロフスキ、ネゼ＝セガン、ソヒエフ、ハーディング、ゲルギエフらの指揮のもと、パリ管、ロンドン響、シュトゥットガルト放送響、ロサンゼルス・フィル、マリインスキー歌劇場管、サンクトペテルブルグ・フィル、ヨーロッパ室内管、マーラー・チェンバー・オーケストラなどと共演。ロンドン、ミュンヘン、アムステルダム、ローマ、パリなどの主要都市でリサイタルを行い、アルゲリッチ主宰のルガーノ音楽祭から定期的に招かれる、今や現代を代表するトップ・ピアニストである。

　室内楽にも力を入れ、アルゲリッチ、シャハム、ヨーヨー・マ、ルノー＆ゴーティエ・カプソン、モディリアーニ四重奏団などとも共演。

　古典、ロマン派から現代音楽までレパートリーは広く、ベートーヴェンのピアノ・ソナタ全曲やリストの「巡礼の年」全曲を世界中で演奏。マントヴァーニ「Suonare」、アンリの「オーケストラのないピアノ協奏曲」なども初演している。

　レコーディングも多く、J.S.バッハ「ゴルトベルク変奏曲」、ラフマニノフやラヴェルの作品集、リスト「巡礼の年」全曲（ショク賞受賞）、P.ヤルヴィ指揮hr響との共演によるブラームスのピアノ協奏曲2曲などのほか、最近ではプレイエル・ピアノを弾いたベートーヴェンのピアノ協奏曲第4番、第5番「皇帝」（エキルベイ指揮インスラ・オーケストラ）をリリースした。

　世界各国での国際的な受賞も多く、2013、2019年と2度もフランスのグラミー賞とよばれるヴィクトワール・ド・ラ・ミュジク（器楽部門）に選ばれた。